

小郡市地域おこし協力隊
による活動報告コラム。

小郡農業活性化

小郡で育てて

小郡で食べる

日々の活動を
配信信中!

小郡市地域おこし協力隊

moromoro82

nougyou_ogori82

市産の農作物を、
多くの消費者へ



諸岡佳紀(もろおかよしき)

1984年、佐賀県生まれ。京都の大学を卒業後、金融業界、新聞社で10年間勤務。小郡市に住む友人の影響で、まちの魅力を身近に感じ、地域おこし協力隊に興味を抱く。35歳の節目に一念発起で応募。



ろーどの柳瀬正さん(左)、もりたばの丸山美枝さん(右)黒キビと一緒に。

花の地産地消、心を込めて育てた黒キビ

上岩田の就労継続支援B型事業所「ろーど」で育てた黒キビが、小郡のドライフラワー専門店「もりたば」で花束に採用されています。

「ろーど」は、平成27年から農業に参入し、合計100aの圃場で主にニラを生産。約20人の障がい者(利用者)が働いています。「ろーど」の管理者・柳瀬正さんは「陽を浴びて自然と向き合う作業は、利用者の特性にも合っている」と話します。一方「もりたば」は、平成30年に開業したドライフラワー専門店。年間千種類の花を扱い、県外のファンも獲得しています。

「ろーど」と「もりたば」の交流が始まったきっかけは、「ろーど」の関連事業所が生産したお菓子を「もりたば」で店頭販売したことでした。そして、今年の春に「もりたば」が「ろーど」に黒キビの生産を依頼。春に種をまき、草刈りや水やりを欠かさず心を込めて育て、8月に黒キビ30本を初出荷しました。

「もりたば」の店主・丸山さんは、やや地味な見た目の黒キビについて「花束の印象を引き締める名脇役」と評し、「生産した人の思いは花にも表れています」とも。

黒キビを使った花束は秋の終わりごろまで店頭で販売されます。来年は今年の5倍の黒キビを注文すること。花の地産地消がまちおこしのヒントになりそうです。

畑で農作業をする利用者



Ogostagram

地域おこし協力隊の日々の活動記録。



幻の青大豆と言われる「キヨミドリ」を使った豆腐やスイーツの試作品。どれも豆の風味が豊かで爽やかな口当たり。



生産者直売所「宝満の市」で毎月11日と25日に「ほうまん便り」を発行しています。ほへとまんぞくするような情報をお届けします。



コロナ禍で疲弊する花農家をサポートしようと、JAみいは管内で採れた切り花を商工会所属の市内生花店3店に卸しています。



三井高校家庭クラブが地元産の枝豆や米粉を使用したピザなどを試作しました。全国高校生料理コンクールにエントリーするそうです!



大板井の家庭菜園でサトイモの花が咲きました。開花は珍しく、連日の猛暑が幸いして花開いたとのこと。花言葉は「無垢の喜び」。



生産者直売所「宝満の市」で、荒巻養蜂場の自家製ハチミツをブレンドした「ハニー&オニオンドレッシング」が販売されています。